**自己評価書（引用・裏付資料編）**

**産業技術系専門職大学院 認証評価**

**自己評価書(引用・裏付資料編)**

**高等教育機関名**

**専攻名**

**提出日　○○○○年○○月○○日**

**目次**

(下記の自己点検結果の点検項目に対する引用・裏付資料の境目ごとに色紙を挿入し、その上に基準の項目名(「基準1 専攻の使命・目的と学習・教育目標の設定と公開」等)を記載すること。引用・裏付資料番号は、基準の項目ごとの通し番号とすること。）

**専攻情報**

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

(2) 専攻名およびその英語表記

(3) 学位名およびその英語表記

(4) 連絡先

(5) 専攻関係数値データ

(6) 専攻関係基礎データ

**専攻概要**

（以下の項目は例示）

1. 専攻の沿革(これまでの研究科・専攻の設置・改組の経緯等)
2. 専門職大学院および研究科の目標と専攻の目標および育成する人材像との関係
3. 学習・教育目標の特徴
4. 修了生の進路・活躍分野
5. 関連する他の教育課程(関連研究科・関連専攻等)との関係
6. カリキュラム上の特色
7. その他の特色

**自己評価**

**基準1　使命・目的および学習・教育目標の設定と公開**

引用・裏付資料番号

(1-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準2　学生受け入れ方法**

引用・裏付資料番号

(2-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準3　教育方法**

引用・裏付資料番号

(3-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準4　教育組織**

引用・裏付資料番号

(4-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準5　教育環境**

引用・裏付資料番号

(5-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準6　学習・教育目標の達成**

引用・裏付資料番号

(6-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準7　教育改善**

引用・裏付資料番号

(7-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**基準8　特色ある教育研究活動**

引用・裏付資料番号

(8-1　資料名の命名が可能な場合には資料名も付けること。以下同様)

　　：

**実地調査で閲覧できる裏付資料名の一覧**

(下記の番号1、2、…に対する資料名は例示)

番号　実地調査閲覧資料名

　1　　授業関連資料

　2　　シラバス

　3　　PBL科目「○○○○」関連資料

　　：

**専攻情報**

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

(2) 専攻名およびその英語表記

(3) 学位名およびその英語表記

(4) 連絡先

* 責任者氏名
* 同所属・職名
* 郵便番号・住所
* 電話番号
* ファックス番号
* メールアドレス

(5) 専攻関係数値データ

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | （なるべく過去5年間）年度 |  |  |  |  |  |
| 学生数 | 研究科全学生数　　（A） |  |  |  |  |  |
| 申請専攻への入学者数あるいは配属者数　　（B－１） |  |  |  |  |  |
| 〃 定員数　　（B－２） |  |  |  |  |  |
| 他専攻等からの編入者数　　（C－１） |  |  |  |  |  |
| 他大学院等からの編入者数　　（C－２） |  |  |  |  |  |
| 申請専攻の全在籍者数　　（D） |  |  |  |  |  |
| 専攻修了者数　　（E） |  |  |  |  |  |
| 教員数 | 専攻関係　専任教員数 （F－１） |  |  |  |  |  |
| 〃　非常勤教員数 （F－２） |  |  |  |  |  |
| 単位数 | 修了に必要な単位数　（G－１） |  |
| 専門関係必修科目単位数　（G－２） |  |
| 選択科目単位数 （G－3） |  |
| 施設 | 学生実験・演習等に使用している面積（m2） （H－１） |  |

(6) 専攻関係基礎データ

専攻関係基礎データ作成上の注意事項

1. 原則として認証評価をうける年度の５月１日現在のデータで作成すること。ただし、各表において作成年に関する指示がある場合は、その指示にしたがって作成すること。
2. Ａ４判で作成すること。また、全体に通しページを付し、目次を作成すること。
3. 表紙には、大学名と専門職大学院の名称（研究科・専攻名）を明記すること。
4. 印刷製本については、他の提出資料と同様、加除が可能な体裁でファイル綴じにすること。
5. 各表に付されている[注]は消去しないこと。
6. 例外事項等がある場合には、専攻側で「備考欄」や表の外に補足説明・注記を付すこと。
7. 専門職大学院（以下「当該大学院」）専任教員に関する表２、表３、および表４については、次の定義・名称によって作表すること。

①専任教員:当該大学院の専任教員であって、下記②～④以外の者

②専任（兼担）教員:専門職大学院設置基準附則２により当該大学院の専任教員であって、他学部・他研究科また当該大学院を１専攻として開設している研究科の他専攻の専任でもある者。ただし、同附則により博士課程の専任に算入している教員は除く。

③実務家教員:当該大学院の専任教員であって、平成15年文部科学省告示第53号第２条第１項に規定する実務経験と実務能力を有する者

④みなし専任教員:同告示同条第２項の規定により、専任教員以外の者であっても、専任教員とみなされる者

1. （表３）（表４）（表８）については、該当する資料を当該大学院で作成している場合、その資料を提出すればよい。該当する資料を作成していない場合は、表計算ソフトで作成された「専攻関係基礎データ」（様式）があるので、それに従って作成すること。
2. 本「専攻関係基礎データ」は、修業年限が２年の大学院を前提としているが、それ以外の修業年限を設定している場合は、当該大学院の修業年限に適宜合わせて作表すること。

次ページから（表１）から（表８）の様式を示す。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ⅰ　教育の内容・方法等 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | １　学位授与状況 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表１） |
|  | 研究科・専攻 | 学位名称 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 備考 |
|  | ○○研究科 | ○○専攻 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 例）○年○月○日開設のため、学位授与は○年度から |
|  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ［注］　 | 1 | 認証評価を受ける年度の前年度までの５年間のデータを示すこと。上記は、2017年度の受審を想定した例である。当該研究科もしくは専攻、課程が最近開設され、そのために学位授与該当者がいない場合は、「備考」欄にその旨を記述すること。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ⅱ　教員組織 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | １　教員組織 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表２） |
|  | ○○研究科・○○専攻（専門職） | 専 任 教 員 数 | 　 | 設置基準上必要専任教員数 | 専任教員１人当たりの在籍学生数 | 兼　担教員数 | 兼　任教員数 | 備　考 |
|  | 教授 | 准教授 | 講 師 | 助教 | 計 | 助手 |
|  | 常勤 | 非常勤 | 常勤 | 非常勤 | 常勤 | 非常勤 | 常勤 | 非常勤 | 常勤 | 非常勤 | 　 |
|  | 専任教員 | 専任教員（下記以外） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |  | 　 |
|  | 専任（兼担）教員 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 実務家教員 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | （みなし専任教員） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 専任以外の教員 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 合 計 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 専任教員に占める教授の比率（％） | 　 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 専任教員に占める実務家教員の比率（％） | 　 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | [注] | 1 | 「教員種別」欄は、冒頭の基礎データ作成上の注意事項「７」にしたがって、次の定義・名称によって作表すること。 |
|  |  |  | ① | 専 任 教 員 : | 当該大学院の専任教員であって、下記②～④以外の者 |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | ② | 専任（兼担）教員 : | 専門職大学院設置基準附則２により当該大学院の専任教員であって、他学部・他研究科また当該大学院を１専攻として開設している研究科の他専攻の専任でもある者。ただし、同附則により博士課程の専任に算入している教員は除く。 |
|  |  |  | ③ | 実 務 家 教 員 : | 当該大学院の専任教員であって、平成15年文部科学省告示第53号第２条第１項に規定する実務経験と実務能力を有する者 |  |
|  |  |  | ④ | みなし専任教員 : | 同告示同条第２項の規定により、専任教員以外の者であっても、専任教員とみなされる者 |
|  |  | 2 | 「大学の教員等の任期に関する法律」に基づく任期制教員を除き、特任教授、客員教授など任用期間のある教員については、専任者（教育研究条件等において専任教員と同等の者）のみを「専任教員数」の欄の「教授｣、「准教授｣、「講師｣、｢助教」の該当する欄（左側）に含めて記入するとともに、その数を「特任等（内数）」欄に内数で示すこと。専任者以外の特任者等については記入しないこと。 |
|  |  | 3 | 「設置基準上必要専任教員数」欄には、「専門職大学院に関し必要な事項について定める件」（平成15年文部科学省告示第53号）により算出した数値を記入すること。同表に基づかない算出方法により設置認可を得ている場合にはその数値を記入するとともに備考欄にその旨を記述すること。 |
|  |  | 4 | 「兼担教員数」欄には、当該専門職大学院の専任ではなく、当該大学院以外の学部・研究科・研究所等を本務先とし、当該大学院の専任に算入しない教員数を記入すること。 |
|  |  | 5 | 「兼任教員数」欄には、学外からのいわゆる非常勤教員数を記入すること。なお、国立大学所属教員については､「兼担｣、｢兼任」を共に「併任」としている場合もあるが、学外からの併任である者は「兼任教員数」欄に記入すること。 |
|  |  | 6 | 「助手」欄には、学部・学科等の専任で専門職大学院の業務にも従事している助手数も含めて記入すること。 |
|  |  | 7 | 専任教務補助員等については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入すること。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ２　専任・兼任教員個別表　＊記入例 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ※ | 本表に該当する資料を当該大学で作成している場合、その資料を提出すればよい。 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 　 | 　 | 　 | 　 | （表３） |
| 職名 | 教員種別 | 常勤・非常勤 | 実務家教員 | 氏　　名（ふりがな） | (性別) | (年齢) | 就　　職 年 月 日 | 現職就任年　月　日 | 授 業 科 目 | 最終学歴、学位称号、資格、実務経験等 |
| 当該経営系専門職大学院以外の科目（＊を付すこと） | 科目名（単位数） | 毎週授業時間数 |
| 前期 | 後期 |
| 教授 | 専任 | 常勤 | 　 | ○　○　○　○（○○○○） | 男 | 57 | 1985.4.1 | 2004.4.1 | 　 | ○○（２単位） | 2.0  | 0.0  | ○○大学○○研究科博士課程修了○○学博士 |
| 　 | PBL○○（４単位） | 2.0  | 2.0  |
| ＊ | ○○演習（２単位） | 0.0  | 2.0  |
| 　 | ○○特講（４単位） | 2.0  | 2.0  |
| 　 | ○○○○（２単位） | 0.0  | 2.0  |
| 　 | ○○○○（２単位） | 2.0  | 0.0  |
| 　 | 計 | 8.0  | 8.0  |
| 准教授 | みなし専任 | 非常勤 | ○ | ○　○　○　○（○○○○） | 女 | 41 | 1990.4.1 | 2004.4.1 | 　 | ○○○○（○単位） | 　 | 　 | ○○大学○○研究科博士課程修了博士（○○） |
| ＊ | ○○○○（○単位） | 　 |  |
| ＊ | ○○○○（○単位） | 　 |  |
| ＊ | ○○○○（○単位） | 　 |  |
| ＊ | ○○○○（○単位） | 　 |  |
| 　 | 計 | 　 | 　 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ［注］ | 1  | 「教員種別」欄は、冒頭の基礎データ作成上の注意事項「７」にしたがって、次の定義・名称によって作表すること。 |
|  |  | ①専任教員 | : | 当該大学院の専任教員であって、下記②～④以外の者 |  |  |  |  |
|  |  | ②専任（兼担）教員 | : | 専門職大学院設置基準附則２により当該大学院の専任教員であって、他学部・他研究科また当該大学院を１専攻として開設している研究科の他専攻の専任でもある者。ただし、同附則により博士課程の専任に算入している教員は除く。 |
|  |  | ③実務家教員 | : | 当該大学院の専任教員であって、平成15年文部科学省告示第53号第２条第１項に規定する実務経験と実務能力を有する者 |
|  |  | ④みなし専任教員 | : | 同告示同条第２項の規定により、専任教員以外の者であっても、専任教員とみなされる者 |
|  | 2  | 授業科目欄については、セメスター制をとっている場合でも、認証評価を受ける年度の担当科目をすべて記入すること。 |  |  |
|  | 3  | 毎週授業時間数は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、時間数に換算して記入すること（例えば１コマ90分の場合は、２時間）。 |
|  | 4  | 専任教員種別において「実務家教員」および「みなし専任教員」とされる者は、右の欄に必ず主な実務経験を１～２つ程度記すこと。 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ３　専任教員の教育・研究業績 |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |  |  | （表４） |
| 所属 | 　 | 　 | 職名 | 　 | 氏名 | 　 |  |
| 常勤・非常勤 | 　 | 実務家教員 | 　 | 教員種別 | 　 |  |
| Ⅰ　教育活動 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 教育実践上の主な業績 | 　 | 　 | 　 | 概　　　　　　　　　　要 |
| 　１　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）　　 | 　 |
| 　２　作成した教科書、教材、参考書　　 | 　 |
| 　３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等　　 | 　 |
| 　４　実務教育に関する特記事項　 | 　 |
| 　５　担当授業科目の授業担当者としての適性　　 | 　 |
| 　６　その他教育活動上特記すべき事項　　 | 　 |
| Ⅱ　研究活動 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 著書・論文等の名　　　称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦でも可） | 　 発行所、発表雑誌（及び巻・　 号数）等の名称 | 編者・著者名（共著の場合のみ記入） | 該当頁数 |
| 著書 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　○○○○○ | 　 | 単著 | 平成10年3月 | △△社 | 　 | 　 | 　 | 250頁 |
| 　○○○○○ | 　 | 共著 | 平成12年4月 | △△△△出版 | 　 | ◎××××、×××× | 120頁～165頁 |
| 論文 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　○○○○○○○○ | 　 | 　 | 単著 | 平成11年２月 | △△△学会誌（第10巻第2号） | 　 | 　 | 16頁～43頁 |
| 　○○○○○○○○ | 　 | 　 | 共著 | 平成13年3月 | 『△△研究』△△出版 | 　 | ××××、×××× | 83頁～134頁 |
| その他 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　○○○○○○○○ | 　 | 　 | 　 | 平成13年3月 | 　 | 　 | ××××、×××× | 　 |
| Ⅲ　実務に関する活動 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　平成○年○月～平成○年○月 | ○○ | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| Ⅳ　学会等および社会における主な活動 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　平成○年○月～平成○年○月 | ○○学会理事 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ［注］ | 1 | 「教員種別」欄は、冒頭の基礎データ作成上の注意事項「７」にしたがって、次の定義・名称によって作表すること。 |
|  |  | ①専 任 教 員 | : 当該大学院の専任教員であって、下記②～④以外の者 |
| 　　　　 | ②専任（兼担）教員 | : 専門職大学院設置基準附則２により当該大学院の専任教員であって、他学部・他研究科また当該大学院を１専攻として開設している研究科の他専攻の専任でもある者。ただし、同附則により博士課程の専任に算入している教員は除く。 |
|  |  | ③実務家教員 | : 当該大学院の専任教員であって、平成15年文部科学省告示第53号第２条第１項に規定する実務経験と実務能力を有する者 |
|  |  | ④みなし専任教員 | : 同告示同条第２項の規定により、専任教員以外の者であっても、専任教員とみなされる者 |
|  | 2 | 専任教員の過去５年間の業績をカバーした固有の業績一覧を提出すること。 |  |  |  |
|  | 3 | 本表に該当する資料を当該大学で作成している場合、その資料を提出すればよいが、全体の書式は統一すること。 |
|  | 4 | 固有の業績一覧を作成していない場合、本表を参考に業績一覧を作成すること。 |  |
|  | 5 | 「Ⅲ実務に関する活動」については、過去５年間にこだわらず所属した企業等名称、所属期間、役職名を記載すること。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ⅲ　学生の受け入れ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | １　志願者・合格者・入学者数の推移 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表５） |
|  | 　 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|  | 志願者 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 合格者 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | 入学者（Ａ） | 　 | （　　） | 　 | （　　） | 　 | （　　） | 　 | （　　） | 　 | （　　） |
|  | 入学定員（Ｂ） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  | (A)/(B)\*100 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 　 |
|  | [注] | 1 | 認証評価を受ける年度の前年度までの５年間のデータを示すこと。上記は、2017年度の受審を想定した例である。 |  |
|  |  | 2 | 春季のほかに秋季入試等を実施している場合は、それぞれに作表し、合計欄を設けること。 |  |
|  |  | 3 | 「入学者（Ａ）」のうち、実務の経験を有する者を（　　）に内数として記入すること。 |  |
|  |  | 4 | 編入学制度を実施している場合は、本表をコピーし、編入学者関係の同様の表(表５の別表)を作成すること。 |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ２　学生定員及び在籍学生数　 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表６） |
|  | 　 | 　 | 　 | 在籍学生数（Ｂ）内訳 | 備考 |
|  | 収容定員 | 在籍学生 | (B)/(A) | 第１年次 | 第２年次 |
|  | （Ａ） | 総数（Ｂ） | 学生数 | 学生数 |
|  | 　 | 　 |  | 　 | 　 | 　 |
|  | 留年者数（内数） | 〈　　〉 | 　 | 〈　　〉 | 〈　　〉 | 　 |
|  | 休学者数（内数） | 《　　》 | 　 | 《　　》 | 《　　》 | 　 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | [注] | 1 | 各年次に留年者がいる場合は人数を〈　〉に内数で記入すること。ただし、休学や留学によって進級の遅れた者は留年に含めない。 |
|  |  | 2 | 各年次に休学者がいる場合も同様に人数を《　》に内数で記入すること。 |
|  |  | 3 | 昼夜開講制をとっている場合は、昼間主コースと夜間主コースにそれぞれ分けて作表し、合計欄を設けること。 |
|  |  | 4 | 「（Ｂ）／（Ａ）」欄については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示すること。 |
|  |  | 5 | 現在の在籍学生に関わる入学定員に変更があった場合には、「備考」欄にその旨を記述すること。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ３　中途退学者数 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表７） |
|  | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 |
|  | １年次 | ２年次 | 合計 | １年次 | ２年次 | 合計 | １年次 | ２年次 | 合計 | １年次 | ２年次 | 合計 | １年次 | ２年次 | 合計 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | [注] | 1 | 認証評価を受ける年度の前年度までの５年間のデータを示すこと。上記は、2017年度の受審を想定した例である。退学者数には、除籍者も含めること。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Ⅳ　施設・設備 |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | １　教員研究室 |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ※　 | 本表に該当する資料を当該大学院で作成している場合、その資料を提出すればよい。 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | （表８) |
|  | 室 数 | 　 | 　 | 　 | 　 | 総面積（㎡）（Ｂ） | １室当たりの平均面積（㎡） | 　 | 専任教員数（Ｃ） | 個室率(%)(A）/（C）\*100 | 教員１人当たりの平均面積（㎡）  | 備 考 |
|  | 個室(Ａ) | 共 同 | 計 | 個 室 | 共 同 |
|  | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | [注] | 1 | 「室数」、「総面積」欄には、当該大学院の専任教員のための研究室について記入すること。 |
|  |  | 2 | 専任教員中、専任（兼担）教員については、当該教員が所属する他学部・他研究科等に研究室がある場合にはこれについて作表すること。また、当該大学院と他学部・他研究科の両方に研究室を用意している場合は、一方のみを記入し、「備考」欄にその旨を記述すること。 |
|  |  | 3 | 「１室当たりの平均面積」は全ての教員研究室について、「教員１人当たりの平均面積」は、専任教員が実際に使用している教員研究室について算出すること。 |
|  |  | 4 | 「個室率」の算出にあたっては、個室数が専任教員数を上回る場合は、原則として 100％と記入すること。 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ２　教育関連施設 |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ※　 | 本表に該当する資料を当該大学院で作成している場合、その資料を提出すればよい。 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 施設名称 | 　 | 　 | 　 | 　 | 面積 | 内容 | 特記事項 |
|  | コンピュータ演習室 | ２００㎡ | コンピュータを用いた演習を行なう教室。 | ２４時間運用のため、カード入退室システム設置。 |
|  | ○○○ | ○○○ | ○○○ | ○○○ |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | [注]　当該専攻において使用している教育施設（例：演習・実習室、コンピュータ設備など）を記入すること。 |  |

**専攻概要**

（以下の項目は例示）

1. 専攻の沿革(これまでの研究科・専攻の設置・改組の経緯等)
2. 専門職大学院および研究科の目標と専攻の目標および育成する人材像との関係
3. 学習・教育目標の特徴
4. 修了生の進路・活躍分野
5. 関連する他の教育課程(関連研究科・関連専攻等)との関係
6. カリキュラム上の特色
7. その他の特色

**自己評価**

**基準1　使命・目的および学習・教育目標の設定と公開**

自己評価の節では（改頁）と指示のある部分でページを改めること。本資料では、紙面の都合上、実際には改頁していない。

(1) 使命・目的の学則等での設定と公開

(改頁)

(2)修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の設定と公開

（改頁）

(3) 学習・教育目標

(改頁)

(4) 研究科等の名称

(改頁)

**基準2　学生受け入れ方法**

(1) 入学者の受け入れの方針（アドミッションポリシー）の設定・公開とそれに基づく選抜の実施

(改頁)

**基準3　教育方法**

(1) 教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の設定と公開

（改頁）

(2) カリキュラムの設計と開示

**表2　授業科目の学習・教育目標に対する関与の程度**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目 | 単位数 | 必選 | 学年・学期 | 学習・教育目標に対する関与の程度 |
| (A) | (B) | … |
| ○○特論 | 2 | 選択 | M1・1 | ◎ | ○ |  |
| ○○演習 | 4 | 必修 | M2・通年 |  | ◎ |  |
| ： | ： | ： | ： | ： | ： | ： |

**表3　各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ**

(改頁)

 (3) カリキュラムにおける実践教育の充実

(改頁)

 (4) シラバスの作成・開示とそれにそった教育と評価の実施

**表4　学習・教育目標を達成するために必要な主要授業科目の評価方法と評価基準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主要な授業科目 | 科目の達成目標 | 評価方法と基準 |
| ○○特論 | ○○に関する基本的な用語を理解する。 | 期末試験○○％以上。 |
| ○○の定理を使用し、○○の解析ができる。 | レポート○○％以上。 |
| ○○工学の位置づけを理解する。 | ： |
| ○○演習 | ○○の手法によるプロジェクト管理ができる。 | ： |
| ○○を用いたプログラミングを理解する。 | ： |
| プロジェクトの結果を効果的に発表できる。 | ： |
| ： | ： | ： |

(改頁)

(5) 学生自身の達成度点検と授業等での学生支援の仕組みとその開示・実施

(改頁)

(6) 授業を行なう学生数に関わる法令の遵守

(改頁)

(7) 年間・学期間の履修バランスに関わる法令の遵守

(改頁)

(8) 授業の期間および夜間・集中授業に関わる法令の遵守

(改頁)

(9) メディア利用に関わる法令の遵守

(改頁)

(10) 通信教育に関わる法令の遵守

(改頁)

(11) 企業等学外での履修に関わる法令の遵守

(改頁)

**基準4　教育組織**

(1) 教員組織の編成に関する基本方針

(改頁)

(2) 教員の数と能力および教育支援体制

(改頁)

(3) 専任教員数に関わる法令の遵守

(改頁)

(4) 専任教員が一専攻に限り専任であることに関わる法令の遵守

(改頁)

(5) 教授の数に関わる法令の遵守

(改頁)

(6) 専任教員の指導能力等に関わる法令の遵守

(改頁)

(7) 実務家教員数と実務家教員の配置に関わる法令の遵守

(改頁)

(8) 専任教員による主要科目担当に関わる法令の遵守

(改頁)

(9) 教員の年齢構成に関わる法令の遵守

(改頁)

(10) 専任教員の本務外業務に関わる法令の遵守

(改頁)

(11) 科目等履修生等受け入れの際の専任教員増に関わる法令の遵守

(改頁)

(12) 2以上の校地での専任教員等の配置に関わる法令の遵守

(改頁)

(13) 教員の教育に関する貢献等の評価方法とその開示、実施

(改頁)

(14) 教員間ネットワークの存在と活動の実施

(改頁)

(15) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在、開示、実施

(改頁)

(16) 職員の質的向上を図る仕組み(SD)の存在、開示、実施

(改頁)

**基準5　教育環境**

(1) 施設・設備

(改頁)

(2) 夜間開講等における施設利用等に関わる法令の遵守

(改頁)

(3) 専任教員の研究室に関わる法令の遵守

(改頁)

(4) 科目等履修生等受け入れの際の教育環境に関わる法令の遵守

(改頁)

(5) 2以上の校地での施設・設備に関わる法令の遵守

(改頁)

(6) 大学院大学における施設に関わる法令の遵守

(改頁)

(7) 財源確保への取り組み

(改頁)

(8) 学生への支援体制

(改頁)

**基準6　学習・教育目標の達成**

(1) 修了認定の基準と方法およびその開示と実施

(改頁)

(2) 修了認定に必要な在学期間および修得単位数に関わる法令の遵守

(改頁)

(3) 在学期間の短縮に関わる法令の遵守

(改頁)

(4) 単位互換等で取得した単位の評価方法・評価基準の作成とその実施

(改頁)

(5)学位名称に関わる法令の遵守

(改頁)

**基準7　教育改善**

(1) 教育点検システムの存在と実施

(改頁)

(2) 教育点検システムの社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みと教育点検システム自体の機能も点検できる構成

(改頁)

(3) 情報公開に関わる法令の遵守

(改頁)

(4) 点検結果に基づく教育システムの継続的な改善の仕組みの存在とその実施

(改頁)

**基準8　特色ある教育研究活動**

(1) 特色ある教育研究活動